

環境と健康

平成26年度事業概要

健康づくりモデル事業などを展開

代表者会議で活発な意見交換上、人材育成をねらいに基礎研修開催(下)



地域活動支援センター・脱温暖化センターひろしまは、環境協の公益事業部門として、公衆衛生推進協議会(以下、公衛協)を主体としたコミュニティにおける健康づくり、環境づくりの支援を行っている。円滑な公衆衛生活動の実現に向けたバランスの良い事務局運営体制の構築、「全県共通事業と個別支援を通じた公衆衛生活動の拡大・充実」を第一期中経営計画(平成25～27年度)の重点方針に掲げ、平成26年度事業を以下の三つの視点で推進する。

①公衆衛生活動の支援
人材養成研修の「基礎研修」「専門研修」の充実、および健康づくりメニューの開発を行い、公衛協活動の活性化に取り組む。

②地球温暖化対策の活動支援
温室効果ガスの排出実態調査を充実するとともに省エネ学習活動の拡充を図り、地球温暖化防止活動推進員の養成・

育成に取り組む。

③地域活動支援センターの機能強化
実践活動の活性化に向け、広島県地区衛生組織代表者会議や広島県地球温暖化防止活動推進センター運営委員会などの機能強化を通じて、地域活動支援センターの組織的な機能強化を図る。特に、代表者会議では専門部会の構成員を拡大させ、より充実した意見交換の場とする。また、ホームページを充実して情報公開と共有を促進し、協会部門間および外部団体との連携強化を図る。

例年、全県の公衆衛生推進協議会関係者が一堂に会し、情報交換などを

行う場として開催している「第53回環境保健夏季大学」を7月10日～11日(1泊2日)に、「第55回広島県公衆衛生大会」を11月26日に開催予定。その他、各種研修会会議も予定している。

また、今年度で6年目となる、公衛協の代名詞的な事業になっている「環境啓発ポスター・標語コンクール」環境と健康のコミュニティ活動助成事業は、申請書の提出締め切りが5月末となっている。ポスター・標語コンクールでは、「事後フォロー活動助成」を継続して行うので、公衛協活動の財源として活用いただきたい。

(地域活動支援センター)



「本当に地球温暖化は進んでいる?寒冷化しているんじゃない?」どちらが本当なのか混乱している方も多いと思います。世界の科学者は地球温暖化をどう見ているのか?統一した意見はあるのか?などについて、最新の報告書をもとに6回シリーズで紹介します。

① IPCC ってなに?

最近、世界のいたるところで、気候異変に関するニュースをよく耳にします。この一年を振り返っても、フィリピンでは猛烈に発達した台風第30号によって大災害が発生しました。また、オーストラリアでは1月に極端な高温現象が発生しました。こういった

は、地球温暖化の『自然科学的根拠を評価』することが仕事で、日本では文部科学省と気象庁が対応しています。第2作業部会は、地球温暖化の自然や社会経済への『影響や脆弱性』に対してどういう対処があるのかという『適応』などの評価を担当しており、環境省が対応しています。第3作業部会は、温室

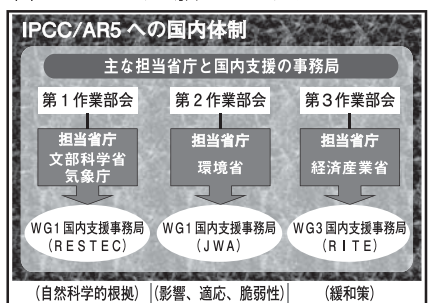
IPCC第5次評価報告書発行 科学者の意見は?

効果ガス排出削減など地球温暖化を加速させない『緩和』についての評価を担当し、経済産業省が対応しています(下図参照)。

さて、2014年1月31日に第1作業部会の第5次報告書が発行されました。私は「世界の科学者の大半で一致した考えはあります!」と言いました。この内容が報告書にまとめられています。後の5回ではこの報告書の内容を細かく紹介します。これからのお付き合いよろしく願います。

効果ガス排出削減など地球温暖化を加速させない『緩和』についての評価を担当し、経済産業省が対応しています(下図参照)。

さて、2014年1月31日に第1作業部会の第5次報告書が発行されました。私は「世界の科学者の大半で一致した考えはあります!」と言いました。この内容が報告書にまとめられています。後の5回ではこの報告書の内容を細かく紹介します。これからのお付き合いよろしく願います。



IPCC WG1 国内支援事務局ホームページより
<http://ipccwg1.restec.or.jp/ipcc/index3.html>
(広島地方気象台 観測予報課 岡崎賢治)

きんせんか 琴線歌

胃の中は、塩酸が分泌されているので、強烈な酸性の環境にあるため、細菌は死滅して生存できないと信じられていたが、1982年にオーストラリアでマールシャルが胃の中にはピロリ菌が生存していることを発見した。▼わが国の感染率は、かつて40歳以上は70%以上あった。この世代は幼少時に衛生環境のよくない時期に育った世代なので感染率が、戦後衛生環境が改善すると若年層の感染率は著しく減少したが、ピロリ菌は胃に定着すると持続感染するので、戦争直後までに育った高齢者では依然として高い感染率である。▼ピロリ菌が感染していると、胃炎が慢性に持続し、最終的には胃粘膜が萎縮する。この過程で胃潰瘍、十二指腸潰瘍に罹患しやすくなる。とともに胃癌発生のリスクが高まっていく。

(環境協評議員・済生会広島病院院長 隅井 浩治)

癌がないことや、除菌治療すると胃癌の発生率が低下することが明らかに。▼平成25年から、ピロリ菌感染胃炎は健康保険で除菌治療が受けられるようになった。▼大きな誤解は、ピロリ菌治療をすれば、もう胃癌にならないと思ってしまうことである。治療しても成功率は70～80%であり、治療後の検査を受けないと、除菌に成功したかしないかわからない。また除菌に成功すれば、胃がんのリスクは軽減するが、胃癌にならないわけではない。除菌が成功して胃の調子がよくなり、胃の検査を受ける機会が減ってしまうと、胃癌が進行するまで気づかず、除菌が仇になってしまうこともある。除菌後も、胃内視鏡などによる胃癌検診は忘れな



一般財団法人 ～みんなの生命(いのち)をまもりたい～

広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)

TEL:082(293)1511 [大代表]
FAX:082(293)1520

かんぽきょう

検索

